WORK Concept For Baja Forged Beadlock

ゼロからの挑戦

●取材協力：WORK（https://www.work-wheels.co.jp/）

WORKのオフロード専用ブランドであるCRAG。ダブルギアスポークデザインを採用したT-GRABICシリーズは、多くの4WD&SUVオーナーを魅了している。それまでには無い個性的なデザインが特長のひとつであるT-GRABICシリーズだが、実はモータースポーツで勝つために生まれた、レースの血を引くホイールだったのである。

WORK Concept For Baja Forged Beadlock 2015 MODEL

Baja1000やTHE Mint400などだけでなく、普段の練習にも使用しているBaja Forged Beadlock 2015 MODEL。数々のキズが付いているが、これまでにトラブルは一度もないというホイールだ。

2018

CRAG T-GRABICのダブルギアスポークデザインを踏襲しつつも、センター部を力強い6本スポークデザインとしたのがCRAG T-GRABICⅡ。Baja Forged Beadlock 2016 MODELを元にデザインされた鋳造ホイールである。

2017

Baja Forged Beadlock 2015 MODELのデザインを引き継いだCRAG T-GRABIC。ダブルギアスポークデザインは軽量化と高剛性を高次元で融合できることから採用された。機能美の集約ともいえる革新的なデザインのホイール。

2016

Baja Forged Beadlock 2015 MODEL のコンセプトも性能も引き継ぎながらホイール外周部のホールデザインを若干大きくしたデザインとなるBaja Forged Beadlock 2016 MODEL。レースマシン固定時の利便性を考慮している。

2015

塙選手がオリジナルのマシンで参加を決めたBaja1000への出場をきっかけに開発されたワンオフの鍛造ホイールがBaja Forged Beadlock 2015 MODEL。CRAG T-GRABICのベースデザインとなったモデルだ。

日本が誇るアルミホイールメーカーであるWORK。数多くリリースしているホイールブランドの中でも、オフロードに特化したものがCRAG（クラッグ）だ。CrossOver（クロスオーバー）、Racing（レーシング）、Gear（ギア）の頭文字から取ったこのブランドは、コンペティションシーンで勝つために作り出されたという背景を持つ。

メキシコで開催される世界的なオフロードレース、「Baja1000で戦える国産ホイールを作って欲しい」…そうWORKに話を持ち込んだのは、オフロードレーサーの塙 郁夫さんだ。塙さんといえば、JFWDA・チャンピオンシップレースシリーズで10年連続チャンピオンを獲得した後、1991年にBaja1000に参戦し、日本人初の完走を成し遂げ、2002年のBaja1000ではクラス優勝を果たした人物だ。

その塙さんが常々思っていたことが、軽いビードロックホイールがあったらいいのに、ということだった。

塙：特にホイールに関しては、アメリカ製のビードロックの装着率が非常に高くて、国産メーカーはほとんど無いに等しい状況だったんだよね。タイヤに関してはずっとヨコハマのジオランダーを使っていて、市販のタイヤで勝つというのがボクのポリシーのひとつでね、そこに日本製の軽いビードロックホイールを加えたいと思ったことが、WORKのホイールを履くきっかけかな。

The Mint400に親子で出場

5月15日に開催されたLOTTEスーパー耐久2HRレースに塙親子がBaja Forged Beadlock 2015 MODELを履いたハイラックスで出場。目的は塙 雄大選手の練習でダイナミックな走りを披露した。

それで2015年のBaja1000への参加を決めた後に、WORKさんへ相談しに行ったんだよ、勝てるホイールを作ってくれないかって(笑)。

編集部:日本には多くのアルミホイールメーカーが存在しますが、その中でWORKを選んだ理由は何だったのでしょうか?

塙:軽いビードロックホイールがあれば勝ちに繋がるということは、いくつかのメーカーにも話をしていたんだけど、これに真っ先に乗ってくれたのがWORKさんだった。数々のレースで多くの実績も残しているWORKさんなら、きっと作ってくれるとも思ったしね(笑)。そしたら本当に鍛造のスペシャルホイールを比較的短期間で完成させてくれたんだ。

編集部:それがBaja Foged Beadlock 2015モデルですね。

塙:アメリカにもビードロックホイールは数々あるんだけど、どれも本当に重い。堅牢さを重視している結果なのだろうけど、レースする側としたら、軽いにこしたことはない。ハンドリングにもドライバーの疲労度も軽いことがメリットになることは明確だから。

でも軽くても割れてバーストを引き起こすようなホイールでは困る。特にBaja1000のような1000マイルをぶっ通しで走るレースでは、バーストによるタイムロスは大きく順位を落とす原因となる。しかも砂漠やオフロードのみならず、オンロードも入るので、あらゆる路面でタイヤを支えるホイールでなければ勝てないんだ。しかも2015年に出場したBaja1000は、オリジナル設計の2WDバギーでの参戦となったので、ホイールに関するデータなども無かったんだけど、これまでの経験からボクの希望を伝えながら、WORKさんに作ってもらったんだよ。

確か最初に依頼したのは30本だったかな。完成したそのホイールは、とにかく軽くて、市販の4WD用ホイールとほぼ同じ重量だった。ビードロック付きだと1.5倍は重くなるのが一般的だったから、もの凄く感動したね。

編集部:軽くて堅牢というビードロックホイールという以外に、塙さんがWORK側に伝えた要望とは何だったのでしょうか?

塙:まずエアバルブ。この品質が良いものでなければダメなこともちろん、石などがヒットしにくい形状であることも重要。その回答として小さめのホールにエアバルブを仕込むことで、必要以上に倒れないものとしてくれた。また、ビードロックリングは脱着しやすいように、ボルトが回しやすい形状としてくれているんだよね。ドロなどが詰まりにくい形状とするなど、細部にまでこだわって作れているのがBaja Foged Beadlock 2015モデル。

ディスクデザインはWORKさんが強度と軽量化を達成させるための結果で、デザイン優先で誕生したものではないんだよ。ボクはカッコイイデザインのホイールだと感心していたんだけど、機能優先だと知って嬉しかったね。目的は何より勝てるホイールだったから。ちなみにビードロックをオレンジカラーにして欲しいと希望したのはボクね。

編集部:その理由は?

塙:当時、カラフルなビードロックなんてアメリカにも無かったからね、目立つしカッコイイから(笑)。

最近になってこそカラフルなリングが増えてきたけど、最初はWORKさんだからね!。

編集部:2015年に誕生したBaja Foged Beadlock 2015モデルは、2017年に登場するCRAG T-GRA BICのベースデザインとなりました。ただ、2016年にはBaja Foged Beadlock 2016モデルが登場しましたが、これはどうしてですか?

塙:Baja Foged Beadlock 2015モデルは、トラブルもなく、実は今も当時のホイールを使い続けているほど信頼性が高いホイール。ただ、ひとつだけ難点があって、それを解消してくれたのがBaja Foged Beadlock 2016モデルだったんだ。

編集部:その難点とは?

塙:ボクらはレーシングマシンも基本的に自分達のトレーラーに積んで運ぶんだけど、その時に、タープをホイールに通して固定するんだよ。ところが、当時に使っていたタープが、Baja Foged Beadlock 2015モデルだと穴が小さくて通らなくて(笑)。

編集部:性能やデザインではなく、ホイールの穴にタープが通らなかったことが、Baja Foged Beadlock 2016モデルの登場の理由だったのですか! ただこのホイールは2018年に登場するCRAG T-GRA BICⅡの元となったデザインで、結果としてT-GRA BICシリーズのバリエーション増加にも繋がっていますね。

塙:市販のT-GRA BICシリーズは、Baja Foged Beadlockの鍛造とは異なり鋳造ですが、ボクはこれを履いて実際にアジアンクロスラリーに出場しています。鋳造の市販品でも、T-GRA BICシリーズは十分に高い剛性と軽さを実現しているんですよ。

また、アジアクロスカントリーラリーは特にビードロックホイールだとタイヤの組み替えができない状況が多い。結果として、川の中で切った時の1回しかタイヤ交換はしなかった。それほど信頼性が高いんだよ、T-GRA BICシリーズは。

塙選手は、2022年3月9日から13日に掛けて行なわれたThe Mint400にもBaja Foged Beadlock 2016モデルを履いて出場し、見事にクラス優勝を果たしている。WORK CRAG T-GRA BICシリーズは、勝つためのホイールとして誕生した背景を持っているのだ。そして塙選手とWORKの挑戦は、これからも続くのである。

壊れるまで使うことで、パーツのデータ収集を行なうという塙さん。Baja Forged Beadlockシリーズはトラブルが無いため、長期に渡り使い続けている。

WORK Concept For Baja Forged Beadlock

ドロや石はけの良いデザインであることも特長。ビードロックリングは脱着しやすいようにボルト留めを採用している。

日本屈指のレーシングドライバーの塙親子

レーシングドライバー
塙 雄大氏

塙 郁夫氏のご子息。自身はジムニーでレーシングドライバーを務めつつ、近年は塙 郁夫氏のコ・ドライバーとして、ダカール・ラリーやThe Mint 400などに出場し、好成績を収めている。今後はドライバーとしても注目されている人物。

レーシングドライバー
塙 郁夫氏

JFWDAチャンピオンシップレースシリーズ」で10年連続チャンピオン、Baja1000の日本人初完走、2020年にはダカール・ラリーでチームスガワラ2号車のドライバーを務めるなど、日本屈指のオフロードレーサーだ。

塙 雄大氏　塙 郁夫氏